



スイッチバック当時の「勝沼駅」。



甲斐往来

第六回 勝沼ぶどう郷駅

シリーズ山梨の駅

四季折々の彩りに包まれる駅

ぶどうと共に歴史を重ねる駅

駅付近に植えられた「甚六桜」と呼ばれる約二百本の桜並木は、駅を愛する地元の人たちが手塩にかけて育てたもので、シーズン中は、多くの花見客で賑わいます。春には桜で彩られ、夏にはぶどう棚をおおう葉の緑に包まれる。秋にはそれが黄色にかわり、冬には冠雪の南アルプスを望むことができる。四季折々の彩りに包まれる勝沼ぶどう郷駅は、甲州の四季を色濃く感じられる駅です。

東京へ甲府間が開通した明治三十六年の中央線開業当時現在の勝沼町内には駅はありませんでした。そのため、物資を鉄道で輸送するには、塩山駅や初鹿野駅(現・甲斐大和駅)へ運ばなくてはならず、住民は不便を強いられていました。大正二年、粘り強く行われた新駅設置運動によって、当時ぶどうやぶどう酒出荷の中心地であった菱山・勝沼地区に、ようやく「勝沼駅」が設置されました。駅は、塩山へ向かう下りこう配に設けられたため、列車が全面的に電車化され駆動性能が向上した昭和四十三年までの間、九二〇坪もの引き込み線を備えるスイッチバック方式でした。現在の駅名に改称されたのは、平成五年のことです。

ト
ンネルを抜け、高尾駅から続いた山あいの景色が一変し、ぶどう畑が広がると、電車は勝沼ぶどう郷駅に到着します。駅が位置する標高五百坪の高台からは、ぶどう畑の中に勝沼町のシンボルともいえる「ぶどうの丘」を望むことができ、この素晴らしい景観から、勝沼ぶどう郷駅は関東の駅百選に選ばれています。



contents

- 1 シリーズ山梨の駅 甲斐往来:「第6回 勝沼ぶどう郷駅」
- 2 特集 山梨ブランド — 個々の輝きを産地ブランドへ
- 8 県職員の数と給与
- 10 山梨県立博物館オープン
- 12 山梨の旧道を訪ねて「小菅村／青梅街道(小菅道)」
- 14 甲斐のひと、インタビュー「銀河万丈 さん」
- 16 地球と遊ぼう「Vol.6 大切な森」
- 18 おいしい山梨再発見 地産地消「フジザクラポーク」
- 20 知って役立つ暮らしの情報「悪質商法にだまされない!!」
- 21 やまのくに 山の花「マツムシソウ」